



北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

北鎌倉だより

会報

2015年3月 NO.31



(水量を調査する 撮影:市川節子 P.5参照)

開園・供用開始の前に

目次

台峯の実施設計の現況報告	2	随筆「谷戸に薫るノイバラの香り」	8
都市計画道路(由比ヶ浜関谷線)その後		台峯の周辺 村岡村	9
第16回「会員の集い」開催	3	掲示板	10
北鎌倉駅トンネル問題について	4	活動記録・編集後記	11
台峯モニタリング報告 水量調査	5	「山歩き」のご案内の挿絵から -2-	12
冬の台峯歩きの報告	6		

.....
< 台峯の実施設計の現況報告 >

基金の提言を受け入れ新たな進展が...
.....

行政に基金の提案が取り入れられる可能性が出てきました。

池の堤防の大規模工事を前提にした従来
の設計案に加え、基金が提言した“池の堤
防工事の縮小案”を基にした設計案が新た
に追加されました。今後はいくつかの堤防工
事の設計案を比較検討しながら、具体的な
堤防改修工事が決定されます。

台峯最大の懸案、池の堤防工事とは？

これまでもお伝えしました通り、台峯緑地
の溜め池(谷戸の池)は優れた景観や貴重
な生態系を有する場所ですが、50 年以上も
放置されていることからヘドロが堆積し、近
年は水質悪化も懸念されるようになりました。
また、外部から無断で動植物が持ち込まれ、
池の生態系に影響を及ぼすなどの問題も生
じています。

一方、鎌倉市は土木的な計算から、池の
堤防強度が不十分であり改修工事が必要と
判断しています。加えて、景観や生態系保全
の視点からも、ヘドロの浚渫や管理用の排
水口の設置が望まれ、そのための工事を兼
ねた堤防の改修工事が不可欠となりました。

しかし、当初鎌倉市が提案した大規模な
工事内容は景観や生態系に与える影響が
大きいため、市民から問題点が指摘されて
いました。

池の堤防工事の縮小案とは？

堤防の上に大量の土を盛り、湿地を埋め
ながら堤防のスロープを広げるという従来
の案に対し、堤防工事の縮小案は、現在の堤

防の上端を切り下げて、その土で側面を補
強し、排水口も設置されます。外部からの土
の持ち込みが避けられるので長期的には元
の景観に戻ることでしょう。ハンノキや湿地へ
の影響も少なくて済みます。

工事車両の進入と散策路の整備

溜め池の堤防工事に伴い、工事車両の
進入を可能にするため、現在の散策路の拡
幅と補強が検討されています。たとえ工事を
前提としなくても散策路の一部が崩壊しか
けているため何らかの補強対策が必要です。

また、散策路からの進入を避けて湿地に
鉄板を敷いて重機を通す案もありますが、湿
地への影響が懸念されます。

この件に関しては、斜面林の手入れなど
開園後の管理の在り方を含めて考えていく
ことになるでしょう。

今後に向けて

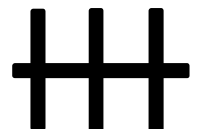
台峯の実施設計(最終的な整備工事の設
計)は 2015 年度末まで検討され、2016 年度、
2017 年度に工事、2018 年 4 月に開園を目指
すことになっています。

溜め池の堤防工事の縮小が決定されたわ
けではありませんが、鎌倉市が当初の案に
加えて、縮小工事案を視野に入れたのは大
きな前進です。

基金は、景観を含めた生態系保全の立場
から、整備工事の細部について最後まで行
政と話し合い協働していきます。

理事 久保 廣晃

< 地図記号: 土の堤防 >



.....
都市計画道路（由比ヶ浜関谷線）その後
.....

「それってなんだっけ」忘れてしまった方もいるかもしれません。台峯の自然環境を根底から破壊しかねない都市計画道路（由比ガ浜関谷線）の事です。今までの経緯は（会報 29号 2013年 12月）をご覧ください。

お忘れの方のために要約します。2013年 9月「見直し方針」を決定し由比ガ浜関谷線のB区間については「保留」となりました。市側は今後の見直しは概ね 10年のスパン（評価検討は 5年）で実施・検討をすすめ、将来を見据えた対応については「都市マスタープラン」「交通マスタープラン」の改定において重点的に施策の検討を行い、対応を図るとしています。

「まだ先の話か？」と思われる方は下記の写真をご覧ください。赤クイが見えますね。都市計画道路の測量のためのクイで、昨年 12月に測量されたものと思われます。北鎌倉女子学園グランドわきから山ノ内配水池手前までで測量が実施されたことにびっくりしました。



一方上記「都市マスタープラン」の評価検討結果は由比ガ浜関谷線（保留中）に少な

からず影響を与えると考え、基金からもメンバーとして協議に参加しています。

協議会は月 1 回のペースですすでに 16 回を数えます。検討資料（含むバックデータ）は市が作成した資料を使います。ところが交通関係で将来交通量の予測データ（25年作成）が用意されましたが、由比ガ浜関谷線についての記述では整備してゆくことが望ましいとの印象を受けるデータが使われています。意図的とは思いませんが、メンバーに与える影響が気になります。

表面的には沈静化（保留）しているように思える都市計画道路（由比ガ浜関谷）線B区間ですが水面下では既に何やら動き出しているようです。注視していく必要があります。

理事 望月眞樹

.....
第 16 回 「会員の集い」 開催
.....

11月 24日、東慶寺脇の山ノ内公会堂にて「会員の集い」が開かれました。

出口理事長が 1 年間を振り返り、続いて新理事が就任の、挨拶を致した次第です。

次に、来賓として「みどりショップの会」の代表を務められた前田陽子氏が、単なる反対運動ではない当基金活動に賛同してきた旨のお言葉を下さったのです。

その後、久保理事から「実施設計案」について説明があり、望月眞樹理事がプロジェクトを用いて台峯の紹介を行ったところ、皆様熱心に聞いて下さりました。

こうして、瞬く間に予定の 2 時間が過ぎ、秋の日を浴びて明るい紅葉の中を、皆様三々五々帰って行かれたのでした。

.....
北鎌倉駅トンネル問題について
.....

JR北鎌倉駅に隣接する岩塊(写真)に掘られたトンネルをめぐる、岩の剥離が目立つようになったとして、地元一部自治会や学校関係者、地権者などからなる「北鎌倉駅裏トンネルの安全対策協議会」が一昨年12月に発足。通行の安全性を踏まえ、市が提示した岩そのものを切り崩す「開削」による安全対策の実施を昨年8月に採択している。



<南側から見た洞門。左に「落石注意」、この先車両通り抜け不可、手前部分は私有地などがある>



<駅に隣接する洞門。右に、貴重な文化財、この洞門が壊されようとしている、などの立札がある>

当基金としては、「北鎌倉緑の洞門保全対策会」と協力し、景観と史跡保護の観点から保存を訴え、署名活動へも積極的に参加・協力を行って来ました。

2月12日現在で署名累計は 10,703 筆となり、第三次の5月末締切まで引き続き運動を進めていきたいと思っています。2月23日に開かれた運動の会合では、景観保護と安全対策を両立させる保存案を進めるべく、今後の進め方への問題点や現時点での運動内容の確認等話し合われました。

今後とも当基金は、保全に向けての署名活動への協力と併せ、運動に協力して行きたいと考えます。一人でも多くの署名協力をお願いいたします。



<北側から見た岩塊と洞門。右下に「落石注意」とある>

文：理事長 出口 克浩
写真：理事 小谷 一夫

台峯モニタリング報告 水量調査

水量調査とは

台峯の水路に流れている水の量を計測します。継続することで季節変化や年較差、そして地点ごとの水量の変化が分かります。

なぜ水量調査が必要か

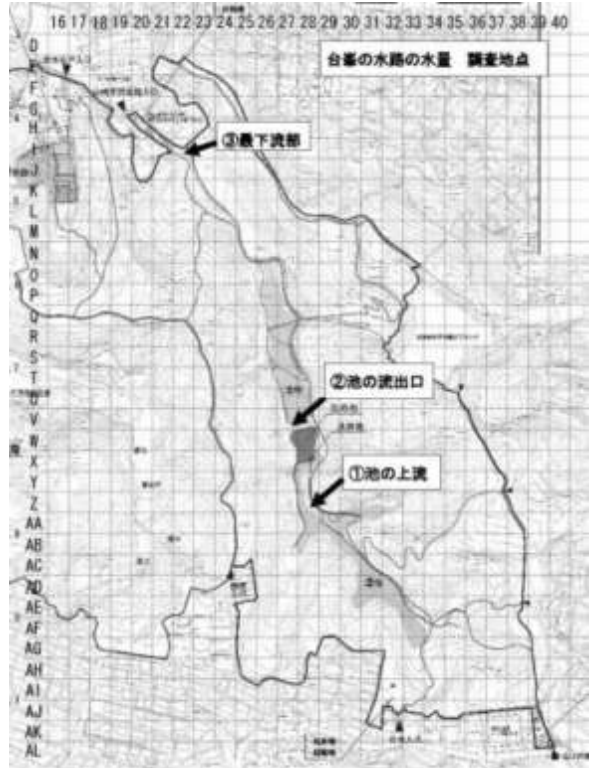
台峯緑地からどのくらいの水が出ているか、現在の状況を把握しておくことで、整備工事や保全管理作業の影響を数年後に確認することができます。例えば、溜め池工改修工事の影響が池の湧水量の影響していないか？ 森林の手入れ作業が山の保水力に関係するのか？ など水の量の変化は基本的な調査として重要です

台峯の水量3地点

溜め池(谷戸の池)の上流部(源流部の水量です) 溜め池(谷戸の池)の流出口(谷戸の池の湧水が源流部からの水量に加わります。表紙写真) 台峯緑地の最下流部(緑地全体の水量が分かります)

水量調査から分かること

各地点の水量は、降雨状況の影響もあり毎月、差が出ていますが、上流から最下流への増加率は毎回、ほぼ一定している傾向があります。



との差から、溜め池(谷戸の池)の湧水量が分かります。あまり変化はないようですが、これが工事後にどうなるか注目したいと思います。

いずれにせよ、1時間あたり 800 リットルから 1400リットル程度、ドラム缶一本分の水が出ていることとなります。これは毎日 1万~2万人の飲料水を確保できる量(一人2リットルと換算して)になりそうです。

理事 久保廣晃

	地点	地点	地点	-	÷	備考
4月	6.0	10.0	20.0	4.0	3.3	
5月	3.5	4.7	11.0	1.2	3.1	
7月	4.1	6.5	12.0	2.4	2.9	
8月	3.2	4.0	11.0	0.8	3.4	
9月	3.2	4.0	11.0	0.8	3.4	8月と同値
10月	10.0	12.0	33.0	2.0	3.3	台風後
12月	5.1	9.1	20.1	4.0	3.9	
1月	4.5	7.1	17.1	2.6	3.8	
2月	4.0	6.5	16.0	2.5	4.0	

(5秒間の水量測定値、単位:リットル)

2014年12月～2015年2月

冬の台峯歩きの報告

12月の山歩きは、遅い紅葉を楽しみながら歩きました。

鎌倉の紅葉は11月半ばからケヤキや真っ赤なハゼなどの紅葉がきれいですが、遅く紅葉する木々もあります。12月になってからようやくコナラの葉が黄色くなり始め、クリスマスが近づくころに茶色がかった樺色に変わり散っていきます。一番遅く色づくのがモミジで12月半ばでも見頃です。

鎌倉の山にはイロハカエデという野生のモミジがあり、台峯のような谷戸地形の斜面に多く見られます。12月15日の台峯歩きは冬の森の中をまだ残っているモミジを求めて歩きました。シイノキなど常緑樹の下からイロハカエデの赤い紅葉が見え隠れ。名付けて“隠れ紅葉”。

冬の初めなので野鳥も多く、配布資料を参考に、シジュウカラやヤマガラなど森の小鳥を観察しました。



1月の山歩きは、新年ということもあり、いつもより少し遠回りして、地元の台稻荷に初詣でをしました。

台峯の北斜面にあるこの神社は小さいながらも背後に森を背負い、ご社殿の右側には市内唯一といわれる樹齢200年はありそうなアカガシの大木があります。今年も無事に楽しく歩けますようにと参加者全員で参拝しました。

谷戸に下りると池の周囲の湿地に、アオジなど冬鳥の群れが見られました。アオジはスズメくらいの大さの鳥で、夏は高原やシベリアで繁殖し、冬になると雪の無い温暖な地域に移動します。草の実を食べるので、アシやオギなどイネ科の植物が生える台峯の湿地は絶好の越冬場所になっています。台峯緑地が都市公園のように整備されると湿地の植物も無くなり、アオジなどの野鳥も少なくなってしまうのですが、幸い、台峯緑地では湿地を大切に守る計画になっています。

この日は、湿地のオギ原に、ベニマシコという赤い色をしたスズメくらいの大さの冬鳥が現れました。今年もオギ原の手入れを試行していますが、全部を刈らずに野鳥の棲家を残しながら手作業で少しずつ進めたのが幸いしたようです。



アオジ(左♀ 右♂)



ベニマシコ（左上が♀）稀にオギ原で見られる幻の鳥

2月の山歩きは、シダをテーマに配布資料を見ながら歩きました。

温暖な鎌倉はシダの宝庫で、森の下草がシダで覆われているのを見かけます。シダを見ていると花は咲かないものの、実に様々な緑色があるのに気づきます。濃い緑から浅い緑色まで緑の濃淡、光沢の有無など、シダを観察していると緑の美しさに改めて感動します。

形も様々ですが、配布資料を片手に識別ポイントを確認しながら歩きました。現場で実物を見ながら観察することで、普段はあまり注目しないシダの世界にしばし浸ることができたのではないのでしょうか。

先月話題になったオギ原のベニマシコを今回も見かけました。

理事 久保 廣晃



ヤブソテツ



ホラシノブ（洞しのぶ）
紅葉するシダで崖などに生える。葉の切れ込みが複雑。



コモチシダ 大きなシダで崖などに生える。葉が厚く、表面にムカゴが出来ることから子持ちシダの名がある。切通しなどが多い鎌倉ではよく見かけるシダ。

.....
随筆 谷戸に薫るノイバラの香り
.....



性質を与えるなど、単なる姿形だけでは分からない資質があります。

台峯では「谷戸の池」の堤防下流部の湿原でよく見かけます。鮮やかな新緑が薫る5月・6月に白い花が咲きます。花は山道からは少々見えにくい位置にあるのですが、近くを歩くと谷間に何とも言えぬ芳香があたりを漂います。山道を散策していても香りに気づかずに通り過ぎてしまうこともあるかもしれませんが、ちょっと一瞬だけでも香りを気にしてもらえると、素晴らしい香りに気づくことと思います。

5月も中旬になるとバラの季節になります。台峯の谷戸にもノイバラと呼ばれるバラがあります。植物園や園芸店の店先を飾るようなモダンローズとは異なり地味なツル性の白い花ですが、湿地に自生するノイバラは香りが素晴らしいです。

そんな素晴らしい香りのノイバラですが、図鑑などでは結構冷遇されているように感じます。たとえば野山の危険な動植物図鑑にノイバラが登場します。動物であれば毒蛇のママシやクマ、植物であればウルシなどと一緒に登場します。確かにバラの中でも棘が鋭く、「危険な植物」なのかもしれません。

山野や河川敷でよく見かけ、「雑草」として括られることもあるので、雑草として除去しようとするならば、鋭い棘が邪魔になるのだと思います。

見方によっては危険視され、時には厄介者扱いを受けるそんな不遇なノイバラですが、香りが素敵で私はとても好きです。香り意外にも新しいバラの品種を作る際に元になることがあります。モダンローズに新しい



美しい新緑の季節に彩を添えるノイバラは、その鋭い棘と地味な花ゆえに、様々な見方をされますが、香りのすばらしさで私はとても好きな花の一つです。

小谷一夫

春爛漫の候となりました。そういえば、高校の試験で四字熟語の問題がありましたっけ。「爛漫」には「桜花」とか「天真」とかと答えるべきでしょうが、中に「美酒」と書いたものが居たのです。丸を貰えたかどうかは忘れましたが。(T)

台峯の周辺 - 歴史つれづれ - 村岡村

台峯からは東海道線の向うに、昭和 11 年社会主義者の山川均夫妻がうづら園を開く。卵は三越食堂の吸物椀に売れたが、世話が鶏とは大違いに大変で、無精卵が多く、育雛も難しかった。前に飼育したいたちは凶暴後に皮算用した狸も人間嫌いで、妻菊栄はこれらの未だ野生の動物を育てるにつけ、何万年もかけて改良された家禽家畜の有難さを思い知り、「古い祖先の苦心と才能に頭の下がる思いが」と感謝の念を示している。（『おんな二代の記』）。

鶉を飼っていると近所の子がクイナやら拾ったカラスやトンビの雛など持込んで楽しかったが、2 年後には大雨で閉園に追い込まれる。そんな時に執筆したのが、都市近郷農村を描いて名高い『わが住む村』、即ち旧村岡村（現藤沢市弥勒寺、村岡東など）である。

その中の、村人の弛まぬ努力が胸を打つ。大船駅開設以来氾濫する柏尾川は、改修を主導する村長や小塚菊蔵らの大変な労苦と負担の末に大正 8 年ようやく堤が完成した。

これに続く次の苦労については『ゆめクラブ藤沢』の HP 上、小塚義三氏が『村岡の今昔』の中で雑誌『家の光』から引用している。
<http://yumeclubfujisawa.web.fc2.com/main/wigaya.html>（同内容の冊子を『ゆめクラブ』大野貞彦氏から頂き、深謝。なお、義三氏引用の『小塚洞物語』とは、同誌昭和 15 年 7 月号の和田傳『小塚洞』のことと思われる。同作品および小塚部落の『部落常会』は和田傳作品集『平野の朝』に所収）

これに拠ると、村内の小塚部落には小山

を越えた向うに広い田畑があった（現武田薬品辺り）が、狭い急坂を上り下りして通わねばならなかった。後に柏尾川工事現場で中心的に働く小塚芳太郎は若き日に下肥を担いでいて転倒、黄金仏となって、泣いた。背負子を負った村娘がひっくり返り、亀の子のようにもがいているのを助けたこともある。

芳太郎は部落の同志と隧道をくりぬく決意をした。農閑期に毎日皆で鶴嘴を振り続けて十余年の昭和 3 年、遂に長さ 25 間の『小塚洞』が完成したのである。一同は抱き合って号泣した。芳太郎とは義三氏の父である。



<『家の光』(S15/7) の『小塚洞』より>

『わが〜』に戻ると、更に昭和 12 年菊蔵の長男源太郎は、用水は不足し溜まった水は捌けぬ耕地に所有の自他に関わらず灌漑・排水用土管を何百間も独力で埋め込んだ。

かくて『駅の出現以来、荒廃に瀕していた十一町歩の田は、三代の苦心』により蘇ったのである。菊栄は、村岡村同様耕地を豊かに変えてきた日本中の先祖の苦勞に思いをさせた。家畜改良についてと同じように。

戦後の開発により隧道も耕地も山ごと消えてしまったが、菊栄が高く評価した、子孫のために自ら犠牲を払う精神はきっとこの地で、また日本の至るところで受け継がれているのだろう、そしてこれからも。 本田 隆史

掲 示 板

みどりショップの会「感謝のつどい」

「みどりショップの会」が 15 年間の活動を終了するにあたり、9 月 20 日「感謝のつどい」が鎌倉芸術館にて開催され、当基金からは出口理事長らが駆付けました。



< 前田代表と当基金からの花束 >

来賓挨拶で出口理事長は長年に亘る物心両面の、一切口を挟まぬご支援に謝意を表しました。また、同会に感謝する催しと銘打って行く今年 5 月 17 日の「山歩き」へ、みなさんをお誘いした次第です。

お別れは寂しいことではありますが、皆様の達成感溢れる会場では、挨拶や謝辞、また詩の朗読などが続きました。

永い間、沢山のご支援を有難うございました。5 月に台峯でお目に掛りましょう。

謹告と追悼

1 月 25 日、当基金理事の和泉あき(本名古山典子)が逝去致しました。八十六年の生涯の晩年、基金創設の当初より事務局業務を引き受け、柱となって尽力したのです。また、山道整備、山歩きにも毎回欠かさず積極的に参加しました。

和泉あき 国文学者でもあった古山典子さん、其の「和泉」は平安の歌人和泉式部から、「あき」は与謝野晶子から、と連

接されますが、担当された毎月の理事会議事録は、其のお人柄の一端を感じさせる筆圧の記録でした。芯の強い三人の女性文学者像を重ね、勝手な回想を巡らせています。

これからも、台峯の上から見守ってください。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

理事長 出口克浩

「古山典子(和泉あき)さんのこと」

会報編集者より、3 月の会報に古山さんの追悼の文を書くよう依頼されました。正直、私の中でこの出来事が過去の出来事として現実から切り離し、整理する事が出来ないでいます。

古山さんは今から 20 年ほど前に、お隣に転居されてきました。1998 年に「あて名書きでもお手伝い出来たら…」と申し出をいただき、2000 年より事務局を担当して頂きました。

以来今日に至るまで、当基金のすべてに係わっていただきました。台峯を歩く会、山道整理、モニタリング、現地調査、ホテル観察会、マツムシを聴く会、北鎌倉女子学園生徒の野外活動の案内等々、古山さんが台峯に足を運んだ回数は、500 回以上になると思います。どんな時にでもやや小柄な姿を、お見かけしたものです。

2012 年 9 月の山歩きは、11 時ごろから約 30 分突然の雷雨に見舞われました。参加者全員がびしょ濡れになりました。東京、横浜からの参加者は、帰路古山宅で服を乾かし着替え、やっと電車で帰る事が出来ました。事務局担当としての責任感の強さを感じた次第です。

古山さんが初めて台峯でホテルを見た

編集後記

時「長生きして良かった。」と言っていました。私もその時この活動を続けてきて本当に良かったと思いました。前号の会報に書かれた古山さんの最期の随筆が「台峯のホタル」です。

台峯谷戸の池の巨大堤防問題は、まだ解決に至っていません。古山さん同様私も台峯の自然を破壊することに反対し続けたいと思います。

2015年2月5日

望月 晶夫

活動記録

(2014年8月～2015年2月)

- 1 「実施設計(案)」への意見書を市あて提出 8/11
- 2 公園課との意見交換 9/11,11/11,1/16
- 3 北鎌倉駅裏トンネル反対集会出席 2/23 ほか
- 4 「会員の集い」 11/24
- 5 理事会 8/3,9/7,10/5,11/2,12/7,1/4,2/1
- 6 鎌倉市都市マスタープラン評価検討協議会出席
3/24,4/23,5/22,6/25,
8/18,9/18,10/1,11/5,1/21,2/25
- 7 台峯を歩く
8/17,9/21,10/12,11/16,12/21,1/18,2/15
- 8 マツムシを聴く 9/23
- 9 山の手入れ 8/16,9/20,10/11,
11/15,12/20(雨天中止),1/17,2/14
- 10 モニタリング 8/3,8/16,9/20,10/18,11/2,
11/15,12/7,12/20,1/4,1/17,2/1,2/14
- 11 軽井沢高原文庫「なだいなだとフランス」展
長女由希さん講演会に理事長出席 8/9
(他にも別の日に何人が基金から訪問者あり)
- 12 「みどりショップの会」15年感謝の集い 9/20
- 13 「竹内謙さんを偲ぶ会」出席 12/5

魚やのじいさんにお使いを頼まれた。渡された紙切れに「さわら、たら、たこ、おひょう、ほや」などとあるのを見て、迷わず魚市場に行った。

ただ、旧仮名遣いなのか、濁点が振ってないし、時に略したりするのでわかりにくい。ハゼを「はせ」、キハダを「きはた」なんて書いてある。でも「はす」とは鯉の仲間の方だろうね、まさか外来種のバスではなくって。「はき」とはハギで、カワハギのことだ。「はせう」にも困ったが、ああ、なんだ、バショウカジキか、と合点した。バショウイカもあるが、この辺りではアオリイカと言うし。

それと、変な魚も多くて、ハッカク、カマツカ、ヒイラギはいいとしても、アカザ、ゴンズイ、ホオズキなんか、ほんとに食べられるのかしらん。

生のカキ以外にニガキも頼まれた。蒸し牡蠣なら食べたことがあるが。

ともあれ、ようやく大体を入手したあと、スギってまるで木みたいな名前だけ？と思ったとたん、急に体が凍てつくのを覚えた。じいさんの趣味が盆栽であったことを思い出したのだ。「ふな」とはブナ(樺)のことではなかったのか？私は植木市に行くべきだったのでは...？

(貝類に及ぶと植物と「同じ名」は、ヒオウギ、ベニイモ、ヤキイモ、キヌカツギイモ、カキツバタ、カバザクラ、ナデシコ、カンギク、ウズザクラ、ベニタケなど。ホトギスにいたっては加えて鳥もいる。「似た名」なら、チリボタン、ツタノハ、ウラシマ(ソウ)、オニコブシ、コグルミ、ササノハ、シャジク(ソウ)、ナガミクリなどと、きりもなや。)

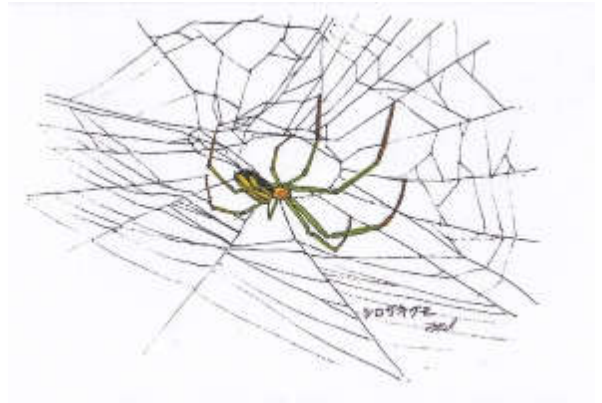
会報 31 号

発行日	2015年3月15日
発行者	特定非営利活動法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金
事務局	〒248-0011 鎌倉市扇ガ谷3-2-12
HP	www.kitakamakura-daimine-trust.org
写真	久保廣晃・市川節子・小谷一夫・望月真樹・本田隆史

「『山歩き』のご案内」
の挿絵から -2-



モノサシトンボ (2014年6月)



シロガネグモ (2014年9月)



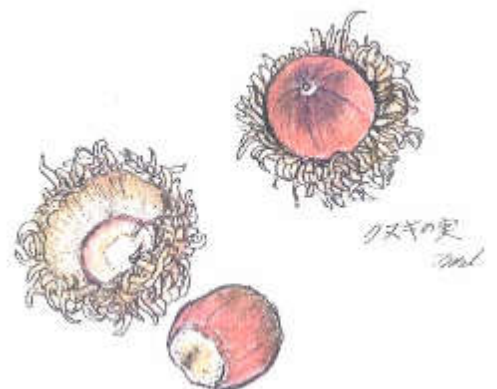
ハンゲショウ (2014年7月)



エノコログサ (2014年10月)



ヤブカラシ -昆虫の食卓- (2014年8月)



クヌギの実 (2014年11月)

<いずれも石原瑞穂氏画>